



# 南郷

札幌市立南郷小学校 学校だより 第2号  
令和8年4月30日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>



## 「嫌だ。お家に帰る。」

～学校に来るのが『当たり前』を見直す～

校長 関根治彦

新年度が始まり3週間が経ちましたが、朝の校門前では、毎年と同じように泣いて登校を渋る子と一生懸命登校を促す保護者のドラマが繰り返されています。『泣き顔の子』『困っている保護者』の双方はともに苦しい状態です。今回は、保護者の皆様が日々向き合っておられるかもしれない、ある『切実な場面』について書こうと思います。それは、朝の玄関先や校門で、お子さんが「学校に行きたくない。」と涙を流す、あるいは布団から出られずに固まってしまうという場面です。

こうした姿を前にしたとき、親として胸が締め付けられるような思いにならない方はいないでしょう。「何かトラブルがあったのではないか。」「このまま不登校になってしまうのではないか。」「自分の育て方が悪かったのではないか。」「——。そんな不安が頭をよぎり、つい焦りから「いいから行きなさい!」「どうして、行きたくないの?」「みんな学校に行っているのよ。行くのが当たり前なの!」と強い言葉を投げ掛けてしまい、後で自己嫌悪に陥る。そんな経験をされている方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、まずお伝えしたいのは、「学校に行きたくない。」という涙は、お子さんからの決して『わがまま』ではない、大切なサインであるということです。

これまでは『学校に行くのが当たり前』という感覚でした。だから、私が子どものころは、学校に行かない=悪という感覚でした。そして、私が教員になった30年ほど前は学校に行かない=何か原因があるはずという感覚でした。そう『当たり前』は変化するのです。昔、私の父の世代に左利きを右利きになるように無理強いしたように。

文部科学省の調査や近年の心理学的知見においても、不登校や行き渋りの理由は決して一つではありません。特定のいじめやトラブルがある場合もあれば、本人にも理由が分からず「なんとなく不安。」「体が動かない。」ということも多々あります。以前の学校便りでも書きましたが、子どもに理由を無理に聞き出そうとすれば、子どもは理由探しをしなければならなくなります。大切なのは現状を受け止め、子どもに寄り添うことです。子どもたちは、学校という社会の中で、大人が想像する以上に高い緊張感をもって過ごしています。周囲の期待に応えようとして、友達との距離感に神経を使ったりする中で、心のコップにたまっていたエネルギーが、ある朝、限界を超えてあふれ出してしまいます。そのあふれた雫が『涙』となって現れるのです。

もし、お子さんが泣いて「行きたくない。」と言ったときは、どうか無理に理由を聞き出したり、正論で励ましたりする前に、まずはその気持ちを「そうなんだね。」「今はそんな気持ちなんだね。」と、まるごと受け止めてあげてください。原因を突き止めることよりも、まずは「ここは安心できる場所なんだ。」とお子さんが感じられることが、エネルギーを再充填するための第一歩になります。

学校としても、私たちは常に皆様と共にあります。『学校だより』という公の場でお伝えしたいのは、『学校は来るのが当たり前』ということを見直しませんか?ということなのです。(決して、来なくてもいいですよということではありません。学校は学びの場であり、友達と切磋琢磨する、成長には欠かせない貴重な場所です。)

私は遅刻してくる子に対して昔は「何時だと思っている。」と指導していましたが、今は「よく来たな～」と声を掛けるようになりました。「学校に来ることは当たり前」ということを見直したときに、登校して頑張っている子、帰宅してきた子への声掛けは変わりませんか?

私たち教職員も、『登校してくることが当たり前』とは捉えていません。保護者の皆様と一緒に、その子が「今、何を必要としているのか。」を考え、伴走する存在でありたいと思っております。保護者の皆様、どうかお一人で抱え込まないでください。学校には、担任のほかに、養護教諭やスクールカウンセラーなど、力になれるスタッフがそろっています。「こんな些細なことで相談してもいいのだろうか。」と躊躇する必要はありません。どんな小さな不安でも、まずは私たちにお聞かせください。

今はほとんど行っていませんが、昔、6年生が卒業間近の時に、先生方を招いて『感謝の集い』を行っていました。その時に「〇〇君は1年生の時に『おうちに帰りたい』と言って、先生の膝の上で泣いていました。」という話を照れ笑いをしながら聞いている姿がありました。前述した『子どもと保護者のドラマ』を笑顔で見ている先輩保護者は、同じような経験をしている人たちが多く、「ああ、ああいう時もあったな～。頑張れ!」と見守っているはずです。

お子さんの歩幅は一人一人違います。雨の日もあれば、風の日もあります。私たちは、お子さんの笑顔がいつか自然な形で戻ってくる日を信じ、ご家庭と手を取り合って、ゆっくりと歩いていきたいと考えております。今、現在、困っている子どもや保護者の皆様が早く、前述した6年生や先輩保護者の仲間になれることを祈って…。



## 第1節(4~6月)の教育目標

### 『かかわろう』

学級組織づくりや運動会の取組などを通して、「目標をもち、自ら行動する」「互いを理解し、尊重する」子どもを目指します。

1	金	全校朝会①・任命式 個人懇談③【金曜日課】 SC相談日	♣
2	土		
3	日		
4	月	みどりの日	
5	火	こどもの日	
6	水	振替休日	
7	木	個人懇談④【短縮4時間授業】	
8	金	個人懇談⑤【金曜日課】	♣
9	土		
10	日		
11	月	眼科検診(1・4年) 開放図書館運営委員会	♣
12	火		
13	水	内科検診(1・2年:あお1組)	♣
14	木	内科検診(3・4年:あお2組) クラブ① ぼかぼかサロン	
15	金	方面別下校のための指導の時間 SC相談日	♣
16	土		
17	日		
18	月		♣
19	火		
20	水	内科検診(5・6年)	♣
21	木	避難訓練① 児童委員会③	
22	金	尿検査日第2回目 SC相談日	♣
23	土		
24	日		
25	月	会議日【短縮5時間授業】	♣
26	火	運動会児童公開日【幌東・本郷・ニチイ:見学】	
27	水		♣
28	木	耳鼻科検診(1・4年:対象者)	
29	金		♣
30	土	<b>第64回運動会</b>	
31	日	運動会予備日①	

★PTA活動

♣クローバー文庫開館日(月・水・金曜日 13:00~)

### SC(スクールカウンセラー)相談日

5月 1日(金)/15日(金)/22日(金)

9:30~15:30

相談したいことがある場合は、担任または教頭まで御連絡ください。



運動会は低学年(1・2年生)、中学年(3・4年生)、高学年(5・6年生)の三つのブロックに分けて実施します。

**日時** 5月30日(土)\*実施できない場合は順延

(登校時間)

(競技時間)

8:05~ 8:15 8:35~ 9:20 低学年ブロック

9:30~ 9:40 9:55~10:45 中学年ブロック

10:55~11:05 11:20~12:20 高学年ブロック

○児童は時差登校、保護者の皆様は入れ替え制です。  
○詳細は、後日配付される運動会特集号で御確認ください。

## 学校徴収金

5月から自動引落が始まります。1回目の引落(4月分)は5月7日(木)です。連休明けになりますので御注意ください。また、今回の徴収金にはPTA共済会費も含まれます。共済会の説明の便り(緑色)も配付しておりますので、御確認ください。

## 年間予定表

学校HPの【年間行事予定】に掲載されていますので、御確認ください。

## 食物アレルギーに関わるお願い

思わぬ事故につながる恐れがありますので、遠足やスキー学習、現地学習などでは、お菓子やおかずなどの交換や譲渡をしないよう指導しています。御家庭でも、お子様と確認をお願いいたします。

## お土産・物品

学校に不必要な物は持ってこない約束になっています。旅行などに出かけた際のお土産・転校時のお礼品を渡すことはアレルギー等の関係もありますので御遠慮ください。